

タイトル：向日市立第5向陽小学校の児童が、ラオス名誉領事からお話を伺いました。

きょうとまるごとお茶の博覧会実行委員会事務局です。

6月4日(水)、在京都ラオス人民民主共和国名誉領事の大野嘉宏さんが、向日市立第5向陽小学校の6年生の皆さんへ、ラオスにまつわるお話をたくさん聞かせてくださいました。

第5向陽小学校の6年生は、今年の秋にラオス出身の方々を学校へお招きし、お茶でおもてなしする予定です。
おもてなしに向けて、大野領事のお話からどんなことを学んだのでしょうか？

今回は、その様子をレポートしていきます！📖

始めに、児童の皆さんから大野領事にごあいさつ。
「お話を聞けるのが楽しみで昨日は眠れませんでした！」
「ラオスの事をたくさん知りたいです！」
という言葉から、わくわくする気持ちが伝わってきました。



ラオスの風景や暮らしが分かる動画を見た後、いよいよ大野領事のお話が始まりました。
まずはラオスの言葉、ラオ語のあいさつを教わります。

みんなで手を合わせて🙏
「サバイディー！（こんにちは）」「コプチャイ！（ありがとう）」
すぐにあいさつをマスターして、先生方もびっくりです！

大野領事は、ラオスにまつわる様々なことを教えてくださいました。
「ラオスはどこにあるか？」
「ラオスの人々はいま、どんな暮らしをしている？」
「ラオスの学校生活は？」「ラオスと日本の関係は？」
大事な話を聞き逃さないよう、一生懸命メモを取ります。

ノートには、大野領事のお話やラオスにまつわるイラストがびっしり📝

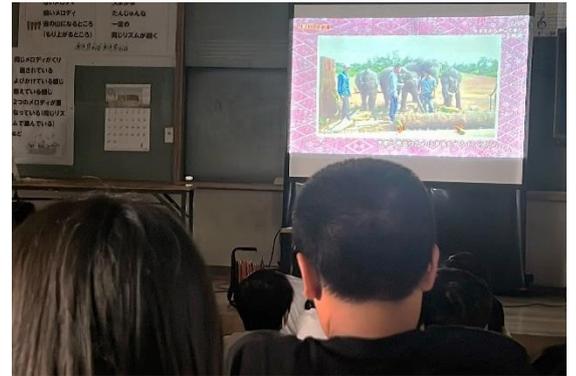


実は、京都とラオスは、とても重要なご縁があります。

京都市動物園にいる5頭のゾウのうち、なんと、4頭は大野領事がラオスから連れてきたゾウだったんです！🐘

大野領事のお話や動画から、ゾウを日本に連れて来るための何年にもわたる壮大なプロジェクトについて学びました。

児童たちは、大野領事たちの熱い想いや努力、ゾウたちが経験した長旅に思いを馳せます。



さて、この日、大野領事と秘書官の小山さんはラオスの民族衣装を身に着けてきてくださいました。

ラオスは織物の技術がとても高いことで有名です。

「パービアン」と呼ばれるショールも、小山さんが身に着けていた巻きスカート、「シン」も、繊細で美しい模様が印象的でした。🌸



大野領事のお話が終わると、次は児童たちの質問タイム。

「ラオスの政治の状況って?」「ラオスのお茶文化は?」「ラオスの国旗の意味は?」「日本との国交が樹立したきっかけは?」など、大人顔負けの難しい質問が飛び出します。

大野領事が一つ一つ丁寧に答えてくださると、

「しらなかった!」「すごい!!」と、好奇心にあふれた楽しそうな声が上がります。

最後に、お礼とごあいさつ。

「いろんなことが知れてよかった」「秋のラオスの人とお茶会に今日学んだことを活かしたい!」という児童の感想に、大野領事は「いつかラオスに来てね」と優しく声をかけてくださいました。



今後、児童の皆さんが今回の授業で学んだことを活かし、
ラオスの皆さんに素敵なおもてなしができることを楽しみにしています🍷

ラオス名誉領事の大野領事、秘書官の小山さん、向日市立第5向陽小学校の先生方・児童の皆さん、
素晴らしい授業にお邪魔させていただきありがとうございました！

[おまけ]

授業の最後、みんなで大きな声で「コブチャイ！（ありがとう！）」を伝えて、学習終了……

…かと思いきや、授業が終わると、児童の皆さんは
一斉に大野領事のもとに駆け寄り、サイン会が始まりました！

児童たちは「握手してもらった！」「サインがかっこいい☆」と大興奮の様子。
大人気の大野領事でした！

